

MOOCs (Massive Open Online Courses) による日本語発音講座 —発音の意識化を促す工夫と試み—

戸田 貴子

要 旨

本稿では、世界初のグローバル MOOCs による日本語教育コンテンツの概要を述べ、発音の意識化を促す工夫と試みを紹介する。数千から数万規模の学習者が受講する大規模公開オンライン講座、MOOCs において、どのような教育実践が実現可能なかを検討し、新しい音声教育のあり方を提案する。

キーワード

MOOCs、edX、オンライン講座、日本語教育、音声教育

1. 開発背景と問題意識

1.1 MOOCs への参加

早稲田大学は 2015 年 9 月より、MOOCs の世界的プラットフォームである edX (<https://www.edx.org/>)¹に参加している。今回、世界中の日本語学習者ならびに日本語教育関係者に向けた「日本語」に関する講座“Japanese Pronunciation for Communication”を無料で配信することになった。11 月 7 日の開講後、すでに 149 か国から一万人以上の受講生が本講座に登録している (2016 年 11 月 16 日現在)。

MOOCs にはグローバル MOOCs の edX、Coursera 以外に、JMOOC (日本) や KMOOC (韓国) のような地域別のローカル MOOCs がある。本稿では、世界初のグローバル MOOCs による日本語教育コンテンツの概要を述べ、発音の意識化を促す工夫と試みを紹介する。

1.2 問題の所在

発音指導というと、対面式授業で教師がモデル音声を提示し、学習者にリピートさせて、教師がその発音を直すというイメージが一般に持たれることが多い。日本語教育の現場では、文型や語彙など、教えるべきことが多い中、「発音にまで手が回らない」という声が度々聞かれる。様々な言語文化背景を持つ学習者が受講する大規模公開オンライン講座、

MOOCsにおいて、世界中から集まる数千人から数万人規模の受講生を対象に、どのようにして日本語音声教育実践を展開することができるのだろうか。

そこで、教室という箱の中で、対面式で教師と学習者が発音練習を行うという従来の音声教育の概念を取り崩し、新たな発想のもと、どのような教育実践が実現可能なのかを検討し、提案していきたい。

2. 講座の目標

本講座は「伝えたい気持ちや内容がきちんと伝わる発音で、日本語が話せるようになること」を最終的な到達目標とし、そのために必要不可欠な音韻知識の獲得、発音の意識化、音声化した発音学習の実践と継続を目指すものである。

3. 講座の概要

3.1 各回の構成

今回新しく制作することになった日本語発音講座の各回（第1回～第5回）の構成は、次のとおりである。

1. 講義：講師による講義映像・ゲストによるインタビュー映像
2. 会話で学ぶ日本語発音とカルチャー：音声を焦点化した会話教材
3. シャドーイング練習用教材：シャドーイング練習に使う音声教材
4. 世界の日本語音声教育：世界で活躍する日研修生・在籍生による実践報告
5. 発音チェック：受講生が会話を録音した音声ファイルを提出、チェックを受ける機能
6. ディスカッションフォーラム：受講生による質問・意見交換の場
7. Quiz（第1回～第4回）および Final Test（第5回）

講師による一方向的な講義に留まらず、学習者が主体的に学習に関わり、発音練習を継続することができる機能を充実させた。日本語の発音の仕組みを学習し、発音練習を行い、発音の練習方法を身につけることができるよう、様々な工夫²を凝らしている。

3.2 講義

本編は、講師による講義が中心となっており、受講生は日本語の音声について学習しつつ、モデル音声を聴き、発音練習を行う。各回の講義内容は次のとおりである。

3.2.1 第0回 講義概要と学習方法

講義概要を紹介する回で、本講座のシラバス、各回の講義内容、学習項目、学習方法、評価方法などを説明する。

3.2.2 第1回 発音のポイント

「伝えたい気持ちや内容がきちんと伝わる発音で、日本語が話せるようになること」を目標に、次の五つの発音ポイントを紹介し、発音練習を行う。1) 特殊拍の発音に意識を向け、日本語のリズムの特徴を学ぶ。2) アクセントを意識し、声の高低に注意する。3) 表現意図とイントネーションの関係に意識を向ける。4) 意味のまとまりを意識して発音す

る。5) 相手との人間関係・話の内容・場に応じた発音を意識する。

3.2.3 第2回 アクセント

アクセントが意味の区別に関わることに気づき、次の三つの学習項目について、発音練習を行う。1) 名詞のアクセント、2) 複合語のアクセント、3) 人名のアクセント

3.2.4 第3回 イントネーション

表現意図の伝達と理解のためにイントネーションが重要であることに気づき、次の六つの学習項目について、発音練習を行う。1) ～じゃない、2) ～でしょう、3) ～でしょうか、4) ～そうですね、5) ～そうですか、6) への字型イントネーション

3.2.5 第4回 話しことばの発音

話しことばの発音の変化を体系的に学び、次の四つのグループに分けて、発音練習を行う。1) 拗音化、2) 「い」の脱落、3) 母音の融合、4) 撥音化

また、次の二つの発音の変化についても、発音練習を行う。1) 長音化、2) 促音化

3.2.6 第5回 発音の達人になろう

「発音の達人」になる方法として、戸田(2008)の研究成果から明らかになった六つのポイントを紹介する。また、大学に入学してから日本語学習を開始したにも関わらず、高度な発音能力を習得し、日本でプロの声優として活躍する劉セイラさんほか、学習成功者によるインタビュー動画の語りから「発音の達人」になる方法を学ぶ。

3.3 会話で学ぶ日本語発音とカルチャー

本教材は、本編の講義内容と連動した会話教材である。現在、日本語教育においてDVD等の視聴覚教材やe-learning教材が複数存在するが、オンライン動画による「音声を焦点化した会話教材」は管見の及ぶ限り見当たらない。

3.3.1 各回の構成

本教材の構成を表1に示す。第1回では、日常生活で欠かせないあいさつの日本語発音を学ぶ。第2回では、2020年の東京オリンピックをトピックにした会話で、名詞・複合語のアクセントを学習する。第3回では、若者の自然な会話の中で、イントネーションの特徴を学ぶ。第4回では、ビジネスパーソンの会話の中で、出張場面を取り上げ、話しことばの発音を学習する。MOOCsは若年層だけでなく、社会人層の受講者も多いため、若者の日本語会話に偏ることなく、社会人の日本語会話も学ぶことができるよう配慮している。第5回では、発音の上達のための練習方法を紹介し、学習者の自律学習を促している。

表1 各回の内容

回	タイトル	学習項目	スタイル
第1回	あいさつ	あいさつの発音	フォーマル・インフォーマル
第2回	東京オリンピック	複合語アクセント、強調、清濁	フォーマル
第3回	原宿	イントネーション、人名のアクセント	インフォーマル
第4回	出張	縮約形、短縮語	フォーマル・インフォーマル
第5回	応援団	発音の学習方法	フォーマル

3.3.2 カルチャー紹介

本教材では、日本語発音を学習する会話教材の中で、会話のトピックと連動した文化的側面を取り上げ、紹介している（表2）。

表2 カルチャー紹介の内容

回	項目
第1回	卒業式、お祝いの品、名刺交換
第2回	東京、オリンピック、五輪マーク
第3回	原宿ファッション、原宿駅、ポップカルチャー
第4回	日本食、駅弁、ご当地グルメ
第5回	学ラン、応援団、おひとりさま

3.4 シャドーイング練習用教材

第1回から第5回において、毎回三つのシャドーイング練習用教材が提供されている（合計15音声ファイル、男女2名の声優による録音）。

3.5 世界の日本語音声教育

第1回から第5回において、中国、韓国、日本、ベトナム、タイで活躍する現職の日本語教師により、世界の日本語学習者の発音の特徴と、指導法・学習方法が紹介されている。

3.6 発音チェック

第1回から第5回において、自らの発音を録音し、音声ファイルを提出した受講生同士が「気持ちや内容が伝わったかどうか」を評価基準に相互評価を行う。日本語を共通言語とし、世界の人々が自分の発音をどのように聞き取っているかを知ることができる。

3.7 ディスカッションフォーラム

第1回から第5回において、受講生からの質問を受けつけ、意見交換の場を提供する。

3.8 クイズおよび最終テスト

各回のクイズ（第1回～第4回）と最終テスト（第5回）を行う。修了基準は次の項目の合計が60%以上とし、希望者に修了証が発行される。³

1. クイズ（第1回～第4回）：40%
2. 発音チェック課題（第1回～第5回）：10%
3. 最終テスト（第5回）：50%

修了証は、すでに就職活動等に有利になるとの報告もなされており[文部科学省 [online: 1357548.htm](https://www.mext.go.jp/online/1357548.htm)]、今後もより多くの人々に、教育の機会を提供する公開教育資源としての役割を果たすと考えられる。

4. 発音学習を活性化する工夫と試み

4.1 個別フィードバック

第3回までに、講義を受講し、課題を提出した継続者のなかから、成績優秀者を選び、約150名を対象に音声の専門家が個別フィードバックを行う。初回から受講生に周知し、学習動機の維持と学習の継続を促し、発音学習を活性化していくねらいがある。

4.2 発音の達人コンテスト

第5回のあと、受講生が「発音の達人になる方法」というテーマでスピーチをし、動画を投稿する。第一次選考を通過した5～10名を対象に、受講生全員で「発音の学習方法が参考になったか」「伝えたい気持ちや内容が伝わる発音で話せたか」を評価基準として投票を行う。上位者には「発音の達人証明書」とノベルティグッズが贈呈される。講師が一方的に学習方法を紹介するのではなく、受講生全員が自らの学びを振り返り、主体的な学習のあり方に気づくねらいがある。

5. まとめと今後の課題

本稿では、世界初のグローバルMOOCsによる日本語教育コンテンツの概要を述べ、新しい発想に基づいた発音の意識化を促す工夫と試みを紹介した。従来の対面式授業における発音指導の概念を乗り越えることにより、世界中の日本語学習者に発音の学習機会を提供できるのではないかと考える。講座の運営方法や学習行動の分析等については今後の課題とし、稿を改めて報告したい。⁴

注

- 1 Harvard 大学、MIT が共同で設立した世界規模のオンライン授業配信プラットフォームである。
- 2 1. から 4. は日本語、英語、中国語、韓国語の字幕表示が選択できるようになっており、インドネシア語、ベトナム語、タイ語の訳文 (HTML) がついている。
- 3 受講無料、修了証を希望する場合に限り、edX への発行手数料 (\$ 49) が必要である。
- 4 本研究は JSPS 科研費 JP26370616 の助成を受けたものである。

参考文献

戸田貴子編著 (2008) 『日本語教育と音声』くろしお出版
 文部科学省『MOOC 等を活用した教育改善に関する調査研究』<http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1357548.htm> (2016年10月7日)
 edX(NihongoX)<<https://www.edx.org/course/japanese-pronunciation-communication-wasedax-jpc-111x>> (2016年10月20日)

(とだ たかこ 早稲田大学大学院日本語教育研究科)